

## 「篠路駅周辺地区まちづくり計画（案）」に対する ご意見の概要と札幌市の考え方

### 1. 概要

「篠路駅周辺地区まちづくり計画（案）」（以下、「本計画」という。）について、より良い計画にしていくため、パブリックコメント手続により、市民の皆様のご意見を募集しました。

お寄せいただいたご意見の概要と、そのご意見に対する札幌市の考え方を公表します。  
なお、本計画が対象としていない内容のご意見は公表していません。

#### （1）意見の募集期間

令和4年（2022年）11月15日（火）から12月14日（水）までの30日間

#### （2）意見の提出方法

郵送、持参、FAX、電子メール、ホームページの意見募集フォーム

#### （3）資料の配布・閲覧場所

- 札幌市役所本庁舎（2階市政刊行物コーナー、4階まちづくり政策局都市計画部事業推進課）
- 各区役所（市民部総務企画課広聴係）
- 北区内の一部のまちづくりセンター（篠路茨戸、太平百合が原、拓北・あいの里）
- 篠路コミュニティセンター
- JR 篠路駅
- 札幌市公式ホームページ

#### （4）意見の内訳

##### ① 意見提出者数 11名

##### ■ 年代別内訳

年代	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明	合計
人数	0	0	0	1	3	4	1	2	11

##### ■ 居住地別内訳

居住地	北区	市内他区	道内他市町村	道外	不明	合計
人数	9	2	0	0	0	11

##### ■ 提出方法別内訳

提出方法	郵送	持参	FAX	電子メール	HP	合計
人数	5	1	0	3	2	11

市政等資料番号  
01-B03-22-2490

② 意見件数 83 件

■ 意見分類別内訳

分類	件数	構成比
第1章 計画策定の背景	12	14%
第2章 まちづくりの現状	11	13%
第3章 まちづくり基本方針	17	20%
第4章 実現に向けた展開	27	33%
その他	16	19%
合計	83	100%

※構成比については、各分類で四捨五入しているため、合計と一致しません。

2. ご意見に基づく変更点

	該当箇所	修正前	修正後	修正理由
1	本書 2P 1-2 位置	当地区は、札幌北 IC から車で約 15 分、丘珠空港より車で約 11 分の位置です。鉄道では札幌駅と約 20 分の位置で接続しております	当地区は、鉄道では札幌駅から約 20 分の位置、車では札幌北 IC から約 15 分、丘珠空港から約 11 分の位置で接続しております	同ページ内で、交通手段の記載順序が統一されていないため、修正いたします。
2	本書 6P 1-3 位置付け (2)第2次札幌市都市計画マスタープラン	先行的に取り組む4つの地域交流拠点	先行的に取り組む4つの地域交流拠点（新さっぽろ、真駒内、篠路、清田）	関連計画の内容理解に必要な4つの地域交流拠点についての説明を追加いたします。
3	本書 7P 1-3 位置付け (3)札幌市立地適正化計画	集合型居住誘導区域と都市機能誘導区域が同一	集合型居住誘導区域と都市機能誘導区域の範囲が同一	図の表現をわかりやすいものとするために説明文を修正いたします。
4	本書 7P 1-3 位置付け (4)篠路駅周辺地区まちづくり実施計画	「篠路駅周辺地区まちづくり事業計画」の実現に向けた事業精査・検討を行い、地区が抱える課題を解決するために、社会基盤整備の事業化と具体的な整備内容	「篠路駅周辺地区まちづくり事業計画」の社会基盤整備（土地区画整理・鉄道高架・道路整備事業）に関わる事業精査・検討を行い、地区が抱える課題を解決するために具体的な整備内容	関連計画の必要な補足説明として記載を追加いたします。
5	本書 8P 1-5 まちづくり重点エリア	篠路駅周辺地区は、東 8 丁目・篠路通、篠路中央通（花畔札幌線）、篠路通の3つの道路の縦軸と、それを結ぶ横軸（横新道）の幹	篠路駅周辺地区は、縦軸となる鉄道（JR 札沼線）、幹線道路（東 8 丁目・篠路通、篠路駅中央通（花畔札幌線）、篠路通）及びこれら	鉄道・幹線道路・バスを含め全体の文章を精査し、北区北部3地区と篠路駅周辺地区の交通状況等の文章表現を修正いた

		線道路・公共交通（バス）により、北区北部地区（太平・百合が原地区、及び拓北・あいの里地区）と繋がっています。また、JR学園都市線でも繋がっています。これらの軸と機能集積の状況から地区を3つのエリアで捉えることができます。	の道路を通行するバスにより北区北部地区（太平・百合が原地区、及び拓北・あいの里地区）と繋がっています。また、篠路駅前及び縦軸を繋ぐ横軸の道路（横新道）との交差点付近には多様な機能が集積しており、交通軸と機能集積の状況から地区を3つのエリアで捉えることができます。	します。
6	本書 15P 2-3 主要な施設 (3)高校・大学など	北海道教育大学 北海道医療大学	北海道教育大学札幌校 北海道医療大学札幌あいの里キャンパス	北区北部3地区にある施設の正式な名称に修正いたします。
7	本書 22P 2-5 交通機能 (2) 公共交通機関	(記載なし)	(JR 札沼線の便数のデータを追加)	公表データを基に公共交通に関する現況を補足するデータを追加いたします。
8	本書 44P 3-3 まちづくり重点エリア(2)各重点エリアの方向性 1)駅前エリア 概要版 7P 3-2 まちづくりの方向性 (2)駅前エリア	北区北部3地区の行政機能の中心となっていますが	北区北部3地区の行政機能を支えるエリアとなっていますが	記載内容の精査及び本計画全体の表現を確認の上、篠路出張所が行っている行政サービスの内容に即した表現に統一いたします。
9	本書 46P 3-4 地域主体のまちづくり活動の方向性 (3)持続できるまちづくり体制を構築する 概要版 8P 3-2 まちづくりの方向性 (4)地域主体のまちづくり活動	多様な担い手 学生	多様な担い手例 高校生、大学生等	大学生に限定するものではなく、高校生や大学生等多様な主体の可能性がわかるように表現を修正いたします。

	3)持続できるまちづくり体制を構築する			
10	本書 48P 3-5 北区北部 3地区の地域交流拠点としての役割 (1) 北区北部 3地区の現況	(記載なし)	(図の凡例を追記)	図が示すデータの内容を理解しやすくするために必要な凡例を追加いたします。
11	本書 52P 4-1 土地利用の実現に向けた展開 (1)駅前街区	地域の特産品などを扱う魅力的な店舗のイメージ、多目的に利用できる空間イメージ	買い物施設や飲食店などの商業機能のイメージ、多世代が集まり交流できる機能のイメージ	本文の説明と写真との関係性がわかるよう写真タイトルを修正いたします。

### 3. 担当

〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目 札幌市役所 4 階南側  
札幌市まちづくり政策局 都市計画部 事業推進課  
TEL:011-211-2706

### 4. ご意見の概要と市の考え方

※掲載上、ご意見の内容は要約し、また、類似するご意見については集約しています。

ご意見の概要と市の考え方

意見 番号	該当ページ	ご意見の概要	市の考え方
第1章 計画策定の背景（背景と目的）			
1	本書2P 概要版1P	「※3 道路整備事業」について具体的な説明がないため記載すべき。	本書2P下段の注釈に、道路整備事業（道路の新設や車道・歩道の拡幅工事、歩道のバリアフリー化により、道路利用者の移動円滑化を図る事業）について記載しております。さらに詳細な説明につきましては、本書7Pに記載しております篠路駅周辺地区まちづくり実施計画に記載しております。
2	本書2P 概要版1P	「北部3地区」と言いながら、「篠路」だけしか具体の記述がない。地域交流拠点になっていない「あいの里」等の位置付けを札幌市はどのように考えているのか。	篠路駅周辺地区まちづくり計画は、篠路駅周辺地区に関するまちづくりについての考え方を示したものであるため、篠路を中心とした内容となっております。篠路やあいの里を含む北区北部地区は、主に一般住宅地又は郊外住宅地に位置づけられており、目指す都市空間に応じた魅力あるまちが形成されることが重要と考えております。
第1章 計画策定の背景（位置）			
3	本書2P	交通アクセスについて、なぜ鉄道が3番目に記載されているのか説明を記載すべき。	交通アクセスについては代表的な例を掲載しております。ご意見を踏まえ、本書2Pの「1-2位置」の1～2行目前半の文章と、2行目後半の文章の交通手段の順序が異なっているため、統一するよう修正いたします。 【修正前】当地区は、札幌北ICから車で約15分、丘珠空港より車で約11分の位置です。鉄道では札幌駅と約20分の位置で接続しており 【修正後】当地区は、鉄道では札幌駅から約20分の位置、車では札幌北ICから約15分、丘珠空港から約11分の位置で接続しており
第1章 計画策定の背景（位置付け）			
4	本書4P、5P、12P 概要版1P	地域交流拠点の用語説明と、指定した経緯を記載すべき。  「地域交流拠点」は、地下鉄駅に比べJR駅は数か所しか指定されていない。  あいの里ではなく、篠路を地域交流拠点とした理由は。また、篠路を開発するのはなぜか。	地域交流拠点については、本書4～5Pに記載の「札幌市まちづくり戦略ビジョン（平成25年策定）」において定められました。用語については本書5Pに記載しております。 また、篠路地区は第2次都市計画マスタープランにて、鉄道高架事業などの社会基盤整備を契機として、拠点としての機能・魅力の向上に向けて取り組むとしており、現在まちづくり計画の策定を進めております。
5	本書6P	「先行的に取り組む4つの地域交流拠点」の記載をすべき。	先行的に取り組む4つの地域交流拠点とは、新さっぽろ、真駒内、篠路、清田を指します。 ご意見を踏まえ、記載を追記いたします。 【修正前】先行的に取り組む4つの地域交流拠点 【修正後】先行的に取り組む4つの地域交流拠点（新さっぽろ、真駒内、篠路、清田）

ご意見の概要と市の考え方

意見番号	該当ページ	ご意見の概要	市の考え方
6	本書7P	「集合型誘導地域と都市機能誘導地域が同一」とあるが「同一」の場合、何を示すのか記載がない。	ご意見を踏まえ、集合型居住誘導区域と都市機能誘導区域の「範囲」が同一であることがわかるように表現を修正いたします。 【修正前】集合型居住誘導区域と都市機能誘導区域が同一 【修正後】集合型居住誘導区域と都市機能誘導区域の範囲が同一
7	本書7P	平成14年に策定した「篠路駅周辺地区まちづくり事業計画」の実現に向けた事業精査・検討とはどのようなことが記載すべき。	社会基盤整備に関わる事業精査を行っていることが分かるよう、表現を修正いたします。 【修正前】「篠路駅周辺地区まちづくり事業計画」の実現に向けた事業精査・検討を行い、地区が抱える課題を解決するために、社会基盤整備の事業化と具体的な整備内容 【修正後】「篠路駅周辺地区まちづくり事業計画」の社会基盤整備（土地区画整理・鉄道高架・道路整備事業）に関わる事業精査・検討を行い、地区が抱える課題を解決するために具体的な整備内容
第1章 計画策定の背景（まちづくり重点エリア）			
8	本書8P	2行目の「公共交通（バス）」が縦軸か横軸か不明である。	ご意見を踏まえ、修正いたします。 【修正前】篠路駅周辺地区は、東8丁目・篠路通、篠路中央通（花畔札幌線）、篠路通の3つの道路の縦軸と、それを結ぶ横軸（横新道）の幹線道路・公共交通（バス）により、北区北部地区（太平・百合が原地区、及び拓北・あいの里地区）と繋がっています。また、JR学園都市線でも繋がっています。これらの軸と機能集積の状況から地区を3つのエリアで捉えることができます。 【修正後】篠路駅周辺地区は、縦軸となる鉄道（JR札幌線）、幹線道路（東8丁目・篠路通、篠路駅中央通（花畔札幌線）、篠路通）及びこれらの道路を通行するバスにより北区北部地区（太平・百合が原地区、及び拓北・あいの里地区）と繋がっています。また、篠路駅前及び縦軸を繋ぐ横軸の道路（横新道）との交差点付近には多様な機能が集積しており、交通軸と機能集積の状況から地区を3つのエリアで捉えることができます。
第1章 計画策定の背景（検討の過程）			
9	本書9P 概要版2P	本書9P「1-6検討の過程」4行目に「地域の皆様のご意見」とあるが、「地域の皆様」とは「連合町内会」の範囲に限られているのか。	平成28年度の「篠路駅周辺地区まちづくりワークショップ」は連合町内会の住民に限らず、広く市民の皆様にご参加いただけるワークショップとして開催いたしました。また、平成30年度の「篠路駅周辺地区のまちづくりに関するアンケート調査」については、北区北部3地区にお住まいの18歳以上の市民の方を対象といたしました。
10	本書9P 概要版2P	検討委員会の学識委員はどのように選任したのか。	検討委員会の学識者は、専門性と、本計画の対象となる土地利用、地域主体のまちづくり活動について、これまでの審議会等の実績を勘案し、依頼しております。

ご意見の概要と市の考え方

意見番号	該当ページ	ご意見の概要	市の考え方
第2章 まちづくりの現状（地域特性、交通特性）			
11	本書15P	北海道教育大学は「北海道教育大学札幌校」、北海道医療大学は「北海道医療大学あいの里キャンパス」と記載すべき。	ご意見を踏まえ、修正いたします。 【修正前】北海道教育大学、北海道医療大学 【修正後】北海道教育大学札幌校、北海道医療大学札幌あいの里キャンパス
12	本書16P	北区北部地区の市民利用施設の位置を示す図を掲載すべき。	本計画は、篠路駅周辺地区における篠路駅東側の駅前街区及び市有地をはじめとした低未利用地の土地活用や、地域主体のまちづくり活動の方向性・展開を示すことを目的としております。 本書17Pに示す主要な施設をはじめ、当地区の現況及びまちづくりに必要な視点を整理するため、図の範囲を篠路駅周辺地区としております。 行政施設である市民利用施設は、北区北部地区内の施設を整理しております。篠路出張所を除き、篠路・茨戸地区、太平・百合が原地区、拓北・あいの里地区にそれぞれ立地していることを示すものであることから、地図表記は行っておりません。
13	本書21P	平成25年度に策定した「篠路駅周辺地区まちづくり実施計画」の策定過程について記載すべき。	本計画は、「篠路駅周辺地区まちづくり実施計画」にて考え方を示す社会基盤整備を契機とした低未利用地の利活用や、地域主体のまちづくり活動の方向性・展開を示すものであるため、概要を記載しております。
14	本書36P 概要版3P	人口減少・少子高齢化が進む中、篠路地区は市内でも比較的地価が安く、子育て世代から高齢者には魅力的な転入要素と捉えられる。	本計画ではまちづくりの視点1として、「若い世代、高齢者が住み続けたいくなるまちづくり」を掲げております（本書38P）。今後も続く人口減少・高齢化を見据え、子育て世代の継続的な流入に繋がる篠路の魅力の維持向上と、若い世代が住み続けたいくなる仕掛け、高齢者にとって住みやすいまちづくりが必要と認識しております。
第2章 まちづくりの現状（土地利用）			
15	本書12P	年表中、JR札沼線の変遷について記載がない。	篠路駅周辺地区のまちづくりに係る年表として、篠路駅周辺地区のまちづくりに関する概要を中心に記載しています。
16	本書17P	市有地A・B・Cの従前の利用状況と空地になった経緯を、明示すべき。	市有地A・Cについては、土地利用の具体化までの暫定的な利活用として、除雪業者等へ貸付を行っています。市有地Bについては、パークゴルフ場として市民の利用に供しております。 なお、市有地A・B・Cについては取得当初より空地の状況です。
17	本書22P	バス路線に関連して、乗降客数を記載すべき。	バスについては、乗降客数の統計データが公表されていないため、便数を整理しています。また、JR札沼線の便数の記載がないため追記いたします。

ご意見の概要と市の考え方

意見番号	該当ページ	ご意見の概要	市の考え方
18	本書24P	地区計画について、北区北部地区で決定している地区計画は掲載すべき。	<p>本計画は、篠路駅周辺地区における篠路駅東側の駅前街区及び市有地をはじめとした低未利用地の土地利用や、地域主体のまちづくり活動の方向性・展開を示すことを目的としております。</p> <p>ご指摘の本書24Pに示す地区計画をはじめ、篠路駅周辺地区の現況及びまちづくりに必要な視点を整理するため、図の範囲を篠路駅周辺地区としております。</p>
19	本書38P 概要版4P	他地区と同じような画一的な駅前とするのは良くない。	<p>本計画ではまちづくりの視点5として、「魅力ある地域資源の共有」を掲げ、篠路らしい魅力あるまちづくりを目指しております（本書38P）。駅前街区は民有地であることから、地権者と本計画の考えを共有し、協議を行いながら篠路地区の個性や特色を生かした土地利用について検討していく必要があると考えます。</p>
20	本書38P 概要版4P	駅前の再開発に合わせた賑わいづくりが必要である。	<p>本計画ではまちづくりの視点4として「にぎわい・交流の場の創出」を掲げております（本書38P）。駅前街区は民有地であることから、地権者と本計画の考えを共有し、協議を行いながら視点を踏まえた土地利用について検討していく必要があると考えます。</p>
第3章 まちづくり基本方針（地域資源）			
21	本書42P、44P、46P、58P 概要版5P、7P、8P、11P	<p>郷土資料館などで文化を保存すべき。</p> <p>軟石倉庫やレンガ倉庫は歴史的価値を鑑み、所有者の意向を尊重しつつ保存活用の機運が醸成されることを願う。</p> <p>軟石倉庫を利用した雑貨・家具・インテリアショップを誘致してほしい。</p> <p>篠路駅高架・建て替えに当たり、歴史が受け継がれるよう配慮すべき。</p> <p>丸ノ線街道踏切撤去の際には、標識の保存など歴史が受け継がれるよう配慮すべき。</p> <p>駅舎を保存活用し、篠路の郷土資料館として利用できるとよい。</p>	<p>魅力ある地域資源の共有はまちづくりに必要な視点と考えております。郷土資料館は原則行政により運営されるものではないこと、また、ご意見を頂いた施設は札幌市の資産ではないことから、本計画では保存等について具体的な考え方を示すことはできませんが、地域主体のまちづくり活動の中で「既存資源の有効活用」を掲げております。令和4年度の社会実験の中でも地域の皆様に篠路の文化・歴史を伝える活動に取り組んでいただきました。</p> <p>なお、「札幌市文化財保存活用地域計画」では、市民のふるさと意識を育む各地域の文化財については、地域との関わりを保ちながら継承されることが文化財の価値や魅力を引き出す上で重要との考え方が示されております。</p> <p>地域の資源を伝える方法は様々ありますが、その文化財を大切に、次の世代に伝えていきたいという地域の思いが重要であることから、地域の自主性を尊重していきたいと考えております。</p>
22	本書46P 概要版8P	五ノ戸の森緑地を子どもが遊びやすく、生物多様性のあふれる公園に整備して欲しい。	<p>都市緑地である「篠路五ノ戸の森緑地」は「札幌市公園整備方針」に基づき、緑の保全のため施設整備は老朽化に伴う施設の更新を行います。今後も生物多様性に配慮した整備、管理を行ってまいります。</p>
23	本書46P 概要版8P	五ノ戸の森緑地は自然のまま残すべきだが、散策路や、倒木の処理など最低限の整備を行うべき。	<p>緑地を利用する方々の安全確保のため、遊歩道にかかる倒木、危険木などの処理は随時、行っております。</p>



ご意見の概要と市の考え方

意見番号	該当ページ	ご意見の概要	市の考え方
24	本書46P 概要版8P	篠路駅から篠路神社へのアクセスがしやすくなると良い。	篠路駅前から篠路神社に通じる篠路駅東通、篠路駅中央通（花畔札幌線）については、歩道拡幅整備・バリアフリー化により歩行環境の整備を進めており、アクセス性の向上につながる予定です。
25	本書46P、52P 概要版8P、9P	軟石倉庫を利用した雑貨・家具・インテリアショップを誘致してほしい。  軟石倉庫を利用した野菜等が買える店や、ライブ、コンサート会場として利用できたらいい。	軟石倉庫は、篠路地区の歴史を伝える貴重な地域の資源と考えております。一方、現在も営業用倉庫として活用される民間所有の建物であることについてご理解をお願いします。
26	本書46P 概要版8P	旧琴似川を楽しめる空間として整備すべき。	旧琴似川の下流区間（篠路地区含む）は、北海道が整備・維持管理を行う1級河川です。現在も上流側から随時環境改善に向けた河川改修が進められております。空間の活用については、地域主体のまちづくり活動において、地域にある多様な場所をうまく活用しながら多世代が交流できる、笑顔あふれるコミュニティづくりを目指すこととしております。
27	本書47P 概要版8P	地元で地道に活動してきた組織の力が活かされるよう配慮すべき。	本書46Pに示すとおり、地域主体のまちづくり活動を継続させていくには、現在地域で活動されている方々、新たな担い手など、多様な担い手により活動体制が構築されることが重要と考えております。
第3章 まちづくり基本方針（土地利用）			
28	本書43P 概要版6P	東エリアと西エリアをつなぐ、駅前エリアは結節点としての役割を果たしてきた。今後も結節点として発展して欲しい。  線路により両エリアの交通が分断されているが、住民の精神的な結節点は、駅前エリアである。今後も両地区の結節点は駅と神社のある駅前エリアであることに変わりはない。	篠路駅周辺地区は、鉄道高架事業による東西市街地の分断解消をはじめ、自由通路整備、歩道拡幅、バリアフリー化等により市街地の移動円滑化が図られ、東西エリアと駅前を結ぶ地区住民の生活動線や来街者の回遊性向上が期待されます。東西エリアの中心となる駅前エリアについては、駅前にふさわしい顔づくりを目指します。
29	本書44P 概要版7P	麻24のバスが篠路地区を外れていることをどのように考えているのか。	バス路線については、バス事業者により地域の皆様の利便性等を考慮して設定されています。なお、篠路駅周辺地区のバス路線は本書22Pに示すとおりです。
第3章 まちづくり基本方針（北区北部3地区）			
30	本書43P 概要版6P	北部3地区と篠路の位置関係がわかりにくい。 「北区北部3地区を支える拠点形成」と記載されているのにその範囲が図示されていない。	北区北部3地区と篠路の位置関係及び主要な交通網について本書3Pに、各地区と篠路を結ぶ公共交通について本書22Pに示しております。これを踏まえ、本書43Pの図では各エリアに日常生活を支える機能をバランス良く配置し、各エリアの機能が連携することにより、北区北部3地区を支える地域交流拠点の形成を図ることを示しております。
31	本書44P 概要版7P	1行目に「駅前エリアは・・・北区北部3地区の行政機能の中心」とあるが、そうなのか。	篠路出張所は北区北部3地区の利便性向上を目指した窓口サービス拡充を行い、様々な行政手続きが可能となっておりますが、表現については修正いたします。  【修正前】駅前エリアは・・・北区北部3地区の行政機能の中心となっておりますが 【修正後】駅前エリアは・・・北区北部3地区の行政機能を支えるエリアとなっておりますが

ご意見の概要と市の考え方

意見番号	該当ページ	ご意見の概要	市の考え方
32	本書48P	「移動が多く」とあるが、具体的にどのぐらいなのか記載すべき。図に凡例などの説明がなく不親切である。	ご意見を踏まえ、凡例を記載いたします。移動割合については図中に示すとおりです。
33	本書50P	このままでは、あいの里は篠路に対して、従属・寄生させるようになると思われる。北区の分区を見据えた準備なのか。	各地区、目指す都市空間に応じた魅力あるまちが形成されることが重要と考えております。また、現時点では分区は予定しておりません。
第3章 まちづくり基本方針（地域主体のまちづくり活動）			
34	本書46P	市役所は教育大・医療大生に具体的にどのようなことをやってきたのか。 「多様な担い手」の「学生」とは高校生なのか、大学生なのか、記載すべき。	札幌市では、北海道教育大学札幌校、北海道医療大学札幌あいの里キャンパスを含めた札幌圏内の大学が参画する連携ネットワークを構築し、学生に向けて、札幌市の取組に関する情報発信や新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた情報提供などを行ってまいりました。 また、教育大学、医療大学の学生との個別の連携事例としては、学生が札幌市のイベントやボランティア事業に参加していただいたり、学生に向けた講座を実施するなどの取組を実施してきたところです。 多様な担い手の「学生」については、高校生や大学生を考慮しております。まちづくり体制の構築には図に示している方を含めた多様な担い手による体制構築が必要と考え、その一例を示しており、「学生」については限定的な表現であったため、ご意見を踏まえ、修正いたします。 【修正前】図 多様な担い手 【修正後】図 多様な担い手例  【修正前】学生 【修正後】高校生、大学生等
第4章 実現に向けた展開（全体の土地利用）			
35	本書52P、56P、59P、概要版9P、12P	【あると良い施設】 飲食店（スープカレー、ラーメン、ソフトクリーム、ケーキなど）、図書館、マンガ図書館、図書館カフェ、気軽に自習できるようなオープンスペース、ヨガ・ジム・料理（パンやお菓子）などが習えるカルチャーセンター、街全体が花や緑であふれ、歩いて楽しい街、グリーンショップ、花屋、バスケットコート  望ましい機能例に「学生を地域に呼び込める教育機能」とあるが具体的にはどんなものか記載すべき。	具体的な施設については、経済・市場・社会環境等が考慮されるため、土地利用を行う段階で計画で定めたコンセプト等にあった施設の立地について検討してまいります。また、地権者等との協議・調整を進めるとともに、民間ヒアリング調査等の継続により、まちづくりのコンセプトの実現と、事業者等の知識や技術、強みを活かすことができる事業手法を検討します。頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。

ご意見の概要と市の考え方

意見 番号	該当ページ	ご意見の概要	市の考え方
36	本書52P、56P 概要版9P	高齢化、子育て世代の住宅、学校など問題は様々あるが、具体的な生活が見えないと言葉だけではまちづくりが見えてこない。	本計画の策定にあたっては、概要版2P「1-4検討過程・検討体制」に示すとおり、ワークショップやアンケート等により地域の皆様のご意見を伺いながら進めてきました。また、新型コロナウイルス感染症やデジタル化の進展、建設資材や燃料費などの高騰など今後の社会情勢の変化等に対応していくため、土地利用の具体化段階での地域の状況等についても考慮することが必要と考えております。
37	本書59P 概要版12P	東エリアの土地利用は、駅前エリアの土地利用が決まってからの方がよい。施設だけに目を向けないで欲しい。	本書60～61Pに示しているとおり、各エリアによって土地利用の可能な時期や、社会基盤整備の進捗などが異なるため、段階的な整備を考えており、早期に利活用が可能な市有地A・Cを先行して具体化を進めていく考えです。駅前街区や市有地Bは地権者、団体等と本計画の考えを共有し、協議を行いながら、これらのまちづくりの進捗に応じた柔軟な活用方法を検討します。適切なタイミングで土地利用を行うことでまちづくりの効果の最大化を目指します。
第4章 実現に向けた展開（駅前街区の土地利用）			
38	本書52P 概要版9P	<p><b>【駅前にあると良い施設】</b> スケボー練習場、温浴施設、地域住民が気軽に交流できる場</p> <p>鉄道の高架下は「時間や空間をシェアできる街づくりを目指して」をコンセプトにした開発をすべき。横新道から篠路駅までの高架前には公園を整備し、高架下にはコンビニ、飲食店、カフェ、書店、100円ショップ、野菜直売所、駐輪場、福祉施設、図書館、託児所などの保育施設などができるとよい。</p>	具体的な施設については、経済・市場・社会環境等が考慮されるため、土地利用を行う段階で計画で定めたコンセプト等にあった施設の立地について検討してまいります。また、駅前街区は民有地であることから、地権者や事業者と本計画の考えを共有し、協議を行いながら、民間ヒアリング調査等の継続により、まちづくりのコンセプトの実現と、事業者等の知識や技術、強みを活かすことができる事業手法を検討します。頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。
39	本書52P	他地区の写真の意図が不明。	現時点で具体的な整備は実施されていないため、他都市の類似事例を掲載しております。なお、写真のタイトルについてはわかりにくい表現であったため、修正いたします。 <b>【修正前】</b> 左：地域の特産品などを扱う魅力的な店舗のイメージ 右：多目的に利用できる空間イメージ <b>【修正後】</b> 左：買い物施設や飲食店などの商業機能のイメージ 右：多世代が集まり交流できる機能のイメージ

ご意見の概要と市の考え方

意見 番号	該当ページ	ご意見の概要	市の考え方
40	本書58P 概要版11P	<p>篠路出張所は駅前にあった方がよい。複合施設に入る形でもよいと思う。駅前エリアに商業機能、交流機能を誘致できるとよい。バリアフリーに配慮にもすべき。</p> <p>駅前エリアに商業機能、交流機能を誘致できるとよい。バリアフリー化に配慮すべき。</p>	<p>出張所を含む公共施設については平成29年策定の「札幌市市有建築物及びインフラ施設等の管理に関する基本的な方針」を踏まえ、将来的な配置や複合化など、今後のあり方について検討してまいります。</p> <p>駅前街区は民有地であることから、地権者と本計画の考えを共有し、協議を行いながら、駅前の生活利便性を向上する商業機能、地域コミュニティの拠点となる交流機能の導入を目指します。また、バリアフリーへの配慮については、設計等の具体的な施設計画の段階で検討・配慮を行っていく必要があると考えております。</p> <p>篠路出張所へは、駅からのアクセス通路については現在整備を進めております。</p>
41	本書58P 概要版11P	<p>駅前エリアで住民自体の賑わいづくりが盛り上がりを見せれば、この地区での起業を志す者も出てくる可能性はある。</p>	<p>土地利用だけでなく、まちを活用する地域主体の活動が両輪で展開されることを目指します。将来的には、これらのまちづくりが駅前エリアや東エリアの全体に波及し、さらに地区全体へ波及することを期待しています。</p>
42	本書58P 概要版11P	<p>地域交流拠点誘導事業等活用について具体的に記載すべき。</p>	<p>本書52P、概要版9Pに記載のとおり、容積率の緩和や事業費の補助などが考えられますが、具体的な整備計画が見えた段階で、開発内容によりどのような活用をすべきか開発事業者と検討します。</p>
43	本書58P 概要版11P	<p>篠路駅東口にはロータリーを作らず、人も車も高架下を東西に通行できるようにするべき。</p>	<p>JR札沼線により分断されているの東西市街地の往来については、鉄道高架による踏切解消・自由通路整備、地下歩道の撤去・道路整備等により、自動車及び歩行者の移動円滑化が図られる予定です。</p>
44	-	<p>篠路駅を新札幌駅のように駅構内から商用施設に行くことができれば、仕事帰りに買い物を済ませたり、人が集まるスペースができるのではないかと。</p>	<p>買い物を済ませたり、人が集まるスペースについては、駅前街区のまちづくりの中で検討してまいります。駅前街区は民有地であることから、地権者と本計画の考えを共有し、協議を行いながら、駅前の生活利便性を向上する商業機能、地域コミュニティの拠点となる交流機能の向上に繋がる機能の導入を目指します。</p>
第4章 実現に向けた展開（市有地ABC）			
45	本書59P 概要版12P	<p>現在は東エリアの人口が増加し、ロードサイド店舗も増えたことから、JR札沼線を跨ぐ東西交通の利便性向上が今まで以上に望まれる。</p>	<p>現在鉄道高架事業を進めており、関連して実施する踏切撤去、地下歩道の撤去・道路整備により、JR札沼線で分断されている東西エリアを繋ぐ交通利便性が高まる予定です。</p>
第4章 実現に向けた展開（地域主体のまちづくり活動）			
46	本書54P 概要版13P	<p>社会実験では駅前空間の利用や世代間交流、情報発信が行われ、一定の成果が得られた。</p>	<p>令和4年度の社会実験では出店やワークショップ、情報発信などの地域の皆様の参加をいただき、4日間で約850名の利用があり様々な可能性が確認されたところです。</p> <p>今後は地域主体のまちづくり活動として、地域の皆様が行いたい活動を支援していきたいと考えております。</p>

ご意見の概要と市の考え方

意見 番号	該当ページ	ご意見の概要	市の考え方
47	本書54P 概要版13P	<p>市民が主体で、住みやすくする仕組みづくりを やりたいという人は潜在的にはいる。</p> <p>フリーマーケットや骨董市など、一般市民でも 出店者として関わりたいと思っている人はいると 思う。将来的な企業家が出てくる可能性もある。 月1のイベントや、毎週決まった曜日に行うイベン トを定着させ、特色あるまちづくり活動が行われ る地区にしたい。</p> <p>人が集まる場所での営業を求めているケータリ ングカー事業主は多いと考える。</p> <p>まちづくり活動団体の発表の場があると良い。</p> <p>まちづくり活動での出店にはある程度の条件を 付けるべき。</p> <p>篠路駅前では気軽に楽しめるまちづくり活動が あると良い。</p> <p>篠路駅前において、四季を通じて気軽に楽しめ るイベントはできそう（収穫祭、ランタンづく り、小樽雪明りの路など）のようなことはでき ると思う。</p> <p>雪を利用したイベントがあると良い。</p> <p>5～6月に篠路の地域資源を巡るフットバスを企 画したらどうか。</p> <p>北区北部地区の野菜販売を農家の方に来店して いただくのはどうか。</p> <p>篠路駅西口側を利用したイベントがあると良 い。</p>	<p>地域主体のまちづくり活動については、頂いたご 意見を含め様々な可能性があり、個々の取組の内容につ いては参加者の主体性を尊重することが重要であるた め、地域の皆様が行いたい活動を支援していきたいと 考えております。地域主体のまちづくり活動を継続し ていくことで多様な担い手の参画に繋がっていくもの と考えております。</p>
48	本書54P 概要版13P	<p>社会実験の予算は。 社会実験の効果はあったのか。</p>	<p>篠路駅前に広場をつくる社会実験の経費は、令和3 年度は約80万円、令和4年度は約60万円です。社会実 験では、広場利用の需要や、地域の皆様との連携の可 能性を検証しました。令和4年度の社会実験では4日間 で約850人来場いただきました。また、取組を通じ てコミュニティの形成や、地域の伝統文化などの地域 情報の発信・継承する場の必要性なども再認識するこ とができました。</p>
49	本書62P 概要版10P	<p>地域住民とあるがこれは連合町内会の範囲と考 えているのか。</p>	<p>まちづくり活動を行う「地域住民」は篠路・茨戸地 区連合町内会の範囲内の住民のみではなく、広く篠路 駅周辺地区に関係する住民の方と考えております。</p>
第4章 実現に向けた展開（社会基盤）			
50	本書58P 概要版11P	<p>バス停の整備を記載すべき。</p>	<p>札幌市では、原則バス路線の運行は民間バス事業者 が担っており、上屋やベンチの設置等の待合環境の整 備についても、停留所の利用状況や周辺環境等を総合 的に勘案した上で、主にバス事業者が実施しているこ ろです。</p> <p>今後も市内バス事業者と連携を図りながら、利用環 境の改善に関する取組を進めていきたいと考えており ます。</p>

ご意見の概要と市の考え方

意見 番号	該当ページ	ご意見の概要	市の考え方
51	本書61P 概要版10P	地域住民の篠路駅へのアクセスをよくするために駅周辺を循環する新たな交通手段を設定してほしい（特に東西方向）。	<p>札幌市では、原則バス路線の運行は民間バス事業者が担っておりますが、全国的なバス運転手不足等をはじめとする課題を抱えており、現状のバス路線をこれまでどおり維持していくことが非常に厳しい状況にあります。</p> <p>このため、バス路線の廃止等に伴って、近隣に代替できる公共交通機関がない場合に、必要に応じて委託運行による代替交通手段を検討することとしております。</p> <p>また、路線の延長や新たな路線の開設につきましては、バス事業者において利用状況や採算性等を総合的に勘案した上で判断を行うことになるため、ご要望の趣旨については市内路線バスを運行するバス事業者にお伝えいたします。</p>
52	-	篠路駅東口側から西口側へ自由通路があるとよい。	鉄道高架事業完了後は、歩行者が自由通路を通じて東西エリアの往来が可能となる予定です。
意見の募集方法			
53	-	意見募集の方法について、町内会を利用して多く意見を募るべきである。	<p>パブリックコメントの実施にあたっては、広報さっぽろ11月号のお知らせ欄に掲載するとともに、シノロナビ（篠路駅周辺地区のまちづくりを伝えるニュースレター）を活用し町内会回覧による事前周知をしております。</p> <p>また、本計画の策定にあたっては、自由参加のまちづくりワークショップ、アンケートの実施、地域団体や地区の事業者で構成する地域協議会の意見交換、町内会を通じた回覧による地域協議会のご案内と傍聴いただいた地域の皆様へのアンケート等を行ってまいりました。</p>